

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

チャイコフスキー

— 休日の午後に聴く二大名曲 —



指揮 Conductor: Sylvain Cambreling

シルヴァン・カンブレラン

ヴァイオリン Violin: Simone Lamsma

シモーネ・ラムスマ

Tchaikovsky: Violin Concerto in D major, op. 35

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

Tchaikovsky: Symphony No. 5 in E minor, op. 64

チャイコフスキー：交響曲 第5番 ホ短調 作品64

コンサートマスター：長原 幸太 Concertmaster: Kota Nagahara

©Otto van den Toorn

★読売日本交響楽団 第194回 土曜マチネーシリーズ

2017年 **2月4日(土)** 14:00開演

Saturday Matinée Series, No. 194 / Saturday, 4th February, 2017 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場 コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥2,500

お申し込み・お問い合わせ 読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時～18時・年中無休) <http://yomikyo.or.jp/>

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）事業提携：東京芸術劇場

★読売日本交響楽団 第194回 日曜マチネーシリーズ

2017年 **2月5日(日)** 14:00開演

Sunday Matinée Series, No. 194 / Sunday, 5th February 2017 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場 コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥2,500

甘美で心に染みるメロディーとドラマチックな盛り上がり、豪勢に鳴り響く管弦楽——。チャイコフスキーの作品には、オーケストラの生演奏を聴くご味が、みっちり詰まっている。だから人気が高いのは当然だ。

でも実は、音楽の奥行きはとても深い。ドイツ、フランス、イタリアなど欧州各地で養分を吸収した巨匠作曲家は、西欧風のきわめて洗練されたスタイルをも備えるに至った。ロシア的な土臭さや熱っぽさだけではなく、多面的なアプローチを許すからこそ、その作品は世界中で愛されているのだ。

さて常任指揮者シルヴァン・カンブルランが就任7年目に入り、円熟期を迎えたのが読響とのコンビである。その評価を高めているのは、カンブルランが得意のフランスものや現代音楽でみせる真骨頂に加え、よく知られた名曲を洗い直し、新たな側面を鮮やかに引き出すマジックだ。

カンブルランが同時代の作品に示す強い関心と共感、過去の傑作に対して、21世紀の視座から鋭い光を当て直すアプローチをもたらす。すると、手あかにまみれた曲はたちまち、これまで気付かずにきた相貌を現し、聴き手をあっと驚かせる。これこそ、古典作品を再演し続けるクラシック音楽の本質にかかわる部分でもある。

そこで今回のチャイコフスキー・プロである。「運命の動機」が全曲を貫くモチーフとなっている交響曲第5番は、すでにおなじみの名品。それに「目からうろこ」のサプライズをもたらしてくれるのが、カンブルラン&読響の名コンビであることは、お分かりの通り。この曲が大好きという方にこそ、どんな魔術が仕込まれたのか、ぜひ会場で確かめていただきたい。カンブルランならではのフレンチ・テイストも、効果を倍増させるだろう。

もう一つの楽しみは、初来日となるオランダの名花、シモーネ・ラムスマがヴァイオリン協奏曲で共演すること。彼女が2015年に出したCDで聴けるシューマンらのソナタでは、積極果敢に作品へ切り込む意欲的な姿勢とストラディヴァリ的美音に引きこまれる。そんな清新で目の覚めるような奏風は、カンブルランのモダンな音楽作りとの相性もばっちり。生氣あふれるフレッシュなチャイコフスキーを堪能しよう。

“目からうろこ”のチャイコフスキーへようこそ

シルヴァン・カンブルラン (常任指揮者)

Sylvain Cambreling, Conductor

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、既に高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、グラングフォーラム・ウィーンの首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデン・バーデン・フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィル、ウィーン・フィルなど世界の一流楽団に客演するほか、ザルツブルク音楽祭やルール・トリエンナーレなどでも活躍している。2015年3月には読響を12年ぶりの欧州公演へ導き、各地で絶賛された。17年11月には、読響とメシアンの大作オペラ「アッシジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を全曲日本初演する。

シモーネ・ラムスマ (ヴァイオリン)

Simone Lamsmma, Violin

ニューヨーク・フィルの次期音楽監督ズヴェーデンから「世界をリードするヴァイオリニスト」と絶賛され、欧米の著名楽団から次々と招かれているオランダの名花。メニューイン音楽院と英国王立音楽院で学び、インディアナポリス国際コンクールなど多くのコンクールで入賞。これまでに、マリナー、ヤノフスキ、ピエロフラーヴェク、コロフスキ、ネゼ＝セガンらの指揮でロイヤル・コンセルトヘボウ管、シカゴ響、クリーヴランド管、フランクフルト放送響、ロンドン・フィルなどと共演している。2017年3月には、ロンドンのウィグモア・ホールとニューヨークのカーネギーホールでリサイタル・デビューする。チャレンジ・クラシックスからリリースされたCDも高い評価を得ている。使用楽器は、1718年製のストラディヴァリウス「ムイナルスキ」。今回が待望の初来日。



©Otto van den Toorn

読響日本交響楽団 第194回 土曜マチネーシリーズ

2017年 2月4日(土) 14:00開演

東京芸術劇場 コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥3,500 **SOLD OUT**

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

■JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分(* 駅地下通路2b出口と直結しています)

読響日本交響楽団 第194回 日曜マチネーシリーズ

2017年 2月5日(日) 14:00開演

東京芸術劇場 コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500 B ¥4,500 C ¥3,500 **SOLD OUT**

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

■JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分(* 駅地下通路2b出口と直結しています)

【託児サービス】東京芸術劇場には一時託児施設があります。だっこルーム 03-3981-7003(要事前予約)

【学生券】学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

■10:00-18:00 年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

■座席選択してチケットをご購入いただけます。(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)
■郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド ■ チケットぴあ 0570-02-9999 ■東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296